

# 「自尊心」の国際比較研究\*

—— アジアの3カ国を中心とする「自尊心」の尺度構成と  
その要因分析の試み ——

兵庫教育大学 学校教育学部 佐々木 正道\*\*  
明石西高等学校 服部 千秋

(1989年7月 受付)

## 1. 序

「自尊心」(self-esteem)に関する心理学ならびに社会学における研究の重要性が James (1890)によって論じられてから数多くの研究があるが、めぼしいものとしては、Wylie(1961), Rosenberg (1965), Coopersmith (1967), Heiss and Owens (1972), Yancey et al. (1972), 根本 (1972), 遠藤 他 (1974), Hulbary (1975), Krauss and Critchfield (1975), 菅 (1975), 野島・村山 (1975), Wells and Marwell (1976), Rosenberg and Pearlin (1978), Porter and Washington (1979), Simmons et al. (1973, 1979), 蘭 (1980), Rosenberg (1981), Gecas (1982), Hoelter (1983), 三田 (1984), 岩井・小田 (1986), 井上 (1986), 徳田 (1987) 等の研究があげられよう。また、実証研究による理論構築に必要となる「自尊心」の測定法としては Coopersmith の尺度が比較的多く使われてきたが、その他種々の開発とその追試がなされてきた (海保・山下 (1968), 松下 (1969), Ziller et al. (1969), Bennett et al. (1971), Crandall (1973), Rosenberg (1979), Hoelter (1983))。しかし、これらの努力にもかかわらず国際比較研究のための「自尊心」の尺度構成法がいまだに確立されていない<sup>注1)</sup>。異文化間の比較研究において共通の基盤が必要となる点を考慮すると (林・鈴木 (1986) 参照), この問題はさらに深刻である。「自尊」の定義は、広辞苑によると「①自ら尊大にかまえること。自ら高ぶること。②自重して自ら自分の品位を維持すること。」と多岐にわたる。しかも、各研究者が使用する既存の測定尺度の選択も多様で、かつ、選択の理由が十分説明されないまま研究が進められている。そこで本研究では、国際比較研究の視点に立って意味の取り違えを最小限にするために、②の意味に限定し、まず、「自尊心」とは何かということをアジアの3カ国の中高生<sup>注2)</sup>を対象に自由記述方式により回答してもらい、「自尊心」の意味を確かめ<sup>注3)</sup>、それに基づきインベントリー方式を採用し、因子分析と林の数量化 III 類を用いて、「自尊心」の新しい尺度構成を試みた。さらに重回帰分析を用いて因子分析によって得られた「自尊心」についての因子得点の要因分析を行なった。

\* この研究は昭和63年度 統計数理研究所 共同研究(63-共研-95)「国際比較に基づく自尊心の測定方法の開発」の一部である。

\*\* 元 統計数理研究所 客員教授 (昭和60年9月~昭和62年4月)。

## 2. 方法

日本、台湾、シンガポールの12歳から20歳の回答者<sup>註4)</sup>に「あなたにとって自分を尊重することはどういうことだと思いますか。思いっただけ自由にいくつでも記入してください」<sup>註5)</sup>という、いわゆる「自尊心」が回答者の側からみて何を意味するのかを考えさせ、この自由記述の回答をもとに回答者の5パーセント以上からあげられた項目を整理し、「自尊心」の尺度として用いながら、インベントリー方式により、新たな回答者に対して調査を実施するといった2段階方式を採用した。

これらの3カ国を選定した理由は、研究結果が日本人の理解に役立つこと、そのためには日本とある程度類似性の高い国を比較することが重要と判断したからである。選定する地域としてはアジアが最もふさわしいと言える。まず、日本はアジアの中で近代化の進んだ国であり、同時に家族関係や義理人情に代表されるように、儒教、仏教など伝統的な背景をもった国でもある。近代化の進んでいる国として、また、その存立の条件として対外貿易に対する依存率が高いという点で日本と類似しているシンガポールを選ぶことができる。つぎに、伝統的な背景をもつ国として台湾が選ばれた。台湾は第二次世界大戦前は日本に占領され、日本文化の影響を大きく受けた国であり、同時に、儒教・仏教文化や義理人情のような伝統的な要素がいまなお根強く残っている国である。

まず、第一段階としての「自尊心」に関する項目収集のためのサンプルとして、28学級1,134名(日本:19学級777名、台湾:4学級194名、シンガポール:5学級163名)を抽出し、教室で担任教諭が回答者に質問票を配布し、集団同時記述方式により回答を得た。調査実施時期は1987年3月から5月であり、所要時間は平均25分であった。

## 3. 第一段階としての「自尊心」の尺度項目の作成

集計はできるかぎり回答者の記述通りまとめたが、内容がほとんど同じことを意味する項目は同じものとしてまとめた。頻度がサンプル数の5パーセント以上の項目は表1の通りである。

上記の5パーセント以上の項目に限定すれば、3カ国の中高生に共通の項目として「健康に留意する」と「自分の心に素直である」の二つがあげられる。日本と台湾の中高生に共通の項目として「夢や目標の実現に向かって努力する」、「勉強して知識を深める」、「友人関係を大切にする」、「家族との関係を大切にする」、台湾とシンガポールの中高生に共通の項目として「人格的に成長する(精神的に満足を得る)」、日本とシンガポールの中高生に共通の項目として「自分の考えをしっかりとつ」、「他人をも思いやることができる」、「必要なときには自分を律する」があげられる。さらに日本の中高生の特徴として「身体的安全に気をつける」、台湾の中高生の特徴として「お金や時間を大切にする」、「服装など外見にも留意できる」及び「適度のくつろぎと自由がある」、シンガポールの中高生の特徴として「正しい言葉づかいや丁寧な言動ができる」があげられる。台湾とシンガポールについてはサンプル数が少ないが、それなりに各国の特色を示していると言えよう<sup>註6)</sup>。

自由記述の結果から「自尊心」の度合をインベントリー方式により測定する質問票を作成した。質問項目は表1に示す(これを用いて行なった本調査における回答分布(%)を同時に示す)<sup>註7)</sup>。

表1. 「自尊心」を測定する項目ならびにインベントリー方式による調査結果の回答分布(%)

| 質問<br>番号 | 質 問 項 目                      | 図1. 2.<br>3の番号 |                        | 日 本  |      | 台 湾  |      | シンガポール |      |
|----------|------------------------------|----------------|------------------------|------|------|------|------|--------|------|
|          |                              | はい             | いいえ                    | はい   | いいえ  | はい   | いいえ  | はい     | いいえ  |
|          |                              | 1              | あなたは運動するなど、健康に注意していますか | 00   | 01   | 69.9 | 30.1 | 53.6   | 46.4 |
| 2        | “ 友達関係を大切にしていますか             | 02             | 03                     | 96.1 | 3.9  | 85.2 | 14.8 | 92.9   | 7.1  |
| 3        | “ けがや危険なことをしないように気をつけていますか   | 04             | 05                     | 75.5 | 24.5 | 81.5 | 18.5 | 85.0   | 15.0 |
| 4        | “ 勉強したり読書したりして知識を深めようとしていますか | 06             | 07                     | 52.6 | 47.4 | 84.1 | 15.9 | 83.9   | 16.1 |
| 5        | “ 自分の命を大切にしていますか             | 08             | 09                     | 91.5 | 8.5  | 79.9 | 20.1 | 91.4   | 8.6  |
| 6        | “ 睡眠を十分にとっていますか              | 10             | 11                     | 61.5 | 38.5 | 54.0 | 46.0 | 54.7   | 45.3 |
| 7        | “ 自分をあまやかさずに生きていますか          | 12             | 13                     | 31.9 | 68.1 | 31.6 | 68.4 | 45.2   | 54.8 |
| 8        | “ 交通ルール・校則などの規則を守っていますか      | 14             | 15                     | 57.8 | 42.2 | 72.0 | 28.0 | 66.7   | 33.3 |
| 9        | “ 規則正しい生活をしていますか             | 16             | 17                     | 41.5 | 58.5 | 48.3 | 51.7 | 61.5   | 38.5 |
| 10       | “ やればできるという気持ちをもっていますか       | 18             | 19                     | 84.1 | 15.9 | 79.1 | 20.9 | 88.5   | 11.5 |
| 11       | “ 他人を尊重していますか                | 20             | 21                     | 85.7 | 14.3 | 88.3 | 11.7 | 90.3   | 9.7  |
| 12       | “ 充実した人生を送ろうとしていますか          | 22             | 23                     | 85.3 | 14.7 | 91.9 | 8.1  | 94.6   | 5.4  |
| 13       | “ 自己反省することがありますか             | 24             | 25                     | 85.4 | 14.6 | 66.1 | 33.9 | 77.8   | 22.2 |
| 14       | “ 自分を愛していますか                 | 26             | 27                     | 61.5 | 38.5 | 88.0 | 12.0 | 87.3   | 12.7 |
| 15       | “ ベストをつくっていますか               | 28             | 29                     | 37.2 | 62.8 | 86.2 | 13.8 | 83.4   | 16.6 |
| 16       | “ 人から信用される人間になろうとしていますか      | 30             | 31                     | 87.6 | 12.4 | 94.0 | 6.0  | 96.5   | 3.5  |
| 17       | “ やろうとしたことは最後までやりとげようとしていますか | 32             | 33                     | 60.9 | 39.1 | 61.7 | 38.3 | 87.7   | 12.3 |
| 18       | “ 自分の言動に責任をもっていますか           | 34             | 35                     | 57.2 | 42.8 | 73.3 | 26.7 | 82.8   | 17.2 |
| 19       | “ 自分で自分がどういふ人間であるかわかっていますか   | 36             | 37                     | 72.8 | 27.2 | 54.6 | 45.4 | 78.3   | 21.7 |
| 20       | “ 自分の気持ちに素直に生きていますか          | 38             | 39                     | 54.9 | 45.1 | 63.5 | 36.5 | 72.6   | 27.4 |
| 21       | “ お金を大切にしていますか               | 40             | 41                     | 75.2 | 24.8 | 68.9 | 31.3 | 68.6   | 31.4 |
| 22       | “ 家族の人となかよくしていますか            | 42             | 43                     | 84.5 | 15.5 | 69.5 | 30.5 | 85.3   | 14.7 |
| 23       | “ 学校の勉強をがんばっていますか            | 44             | 45                     | 52.4 | 47.6 | 38.5 | 61.5 | 78.1   | 21.9 |
| 24       | “ くつろぐ時間がありますか               | 46             | 47                     | 82.3 | 17.7 | 90.1 | 9.9  | 81.5   | 18.5 |
| 25       | “ 食事をきちんととっていますか             | 48             | 49                     | 86.2 | 13.8 | 46.8 | 53.2 | 55.6   | 44.4 |
| 26       | “ 人格的に成長しようとしていますか           | 50             | 51                     | 81.7 | 18.3 | 60.4 | 39.6 | 86.7   | 13.3 |
| 27       | “ 両親との関係を大切にしていますか           | 52             | 53                     | 81.8 | 18.2 | 87.5 | 12.5 | 89.9   | 10.1 |
| 28       | “ 学校での服装に注意を払っていますか          | 54             | 55                     | 82.3 | 17.7 | 90.3 | 9.7  | 87.4   | 12.6 |
| 29       | “ 誠実に生きていますか                 | 56             | 57                     | 68.3 | 31.7 | 61.0 | 39.0 | 83.0   | 17.0 |
| 30       | “ 清潔にしていますか                  | 58             | 59                     | 94.1 | 5.9  | 84.9 | 15.1 | 93.2   | 6.8  |
| 31       | “ 適度な自由がありますか                | 60             | 61                     | 84.9 | 10.1 | 87.5 | 12.5 | 83.8   | 16.2 |
| 32       | “ 異性の友達とうまく人間関係をもっていますか      | 62             | 63                     | 58.7 | 41.3 | 48.8 | 51.2 | 54.3   | 45.7 |
| 33       | “ 時間を大切にしていますか               | 64             | 65                     | 50.1 | 49.9 | 54.6 | 45.4 | 53.1   | 46.9 |
| 34       | “ 夢・目標の実現に向けてがんばっていますか       | 66             | 67                     | 59.4 | 40.6 | 73.4 | 26.6 | 85.3   | 14.7 |
| 35       | “ ていねいなことばづかいをしていますか         | 68             | 69                     | 39.3 | 60.7 | 67.4 | 32.6 | 73.4   | 26.6 |
| 36       | “ 人に親切ですか                    | 70             | 71                     | 70.0 | 30.0 | 76.5 | 23.5 | 88.3   | 11.7 |
| 37       | “ 自分が正しいと思ったことを行なっていますか      | 72             | 73                     | 73.3 | 26.7 | 72.7 | 27.7 | 89.6   | 10.4 |
| 38       | “ 正しい行ないをしていますか              | 74             | 75                     | 65.6 | 34.4 | 87.4 | 12.6 | 69.6   | 30.4 |
| 39       | “ 礼儀正しいですか                   | 76             | 77                     | 60.0 | 40.0 | 78.9 | 21.1 | 79.0   | 21.0 |
|          | 12 歳                         | 78             |                        | 8.7  |      | 2.1  |      | 5.7    |      |
|          | 13 歳                         | 79             |                        | 14.6 |      | 9.2  |      | 19.5   |      |
|          | 14 歳                         | 80             |                        | 16.3 |      | 13.4 |      | 21.6   |      |
|          | 15 歳                         | 81             |                        | 17.5 |      | 23.5 |      | 18.7   |      |
|          | 16 歳                         | 82             |                        | 18.1 |      | 21.0 |      | 15.7   |      |
|          | 17 歳                         | 83             |                        | 17.1 |      | 21.4 |      | 9.7    |      |
|          | 18 歳                         | 84             |                        | 7.6  |      | 6.8  |      | 3.4    |      |
|          | 19 歳                         | 85             |                        | 0.0  |      | 2.1  |      | 3.6    |      |
|          | 20 歳                         | 86             |                        | 0.0  |      | 0.5  |      | 2.3    |      |
|          | 性 別                          | 男性             | 87                     |      | 48.7 |      | 41.1 |        | 51.5 |
|          |                              | 女性             | 88                     |      | 51.3 |      | 58.9 |        | 48.5 |

表2. 調査対象(人数).

|       | 日 本 | 台 湾 | シンガポール <sup>注2)</sup> |
|-------|-----|-----|-----------------------|
| 中学1年生 | 148 | 107 | 190                   |
| 中学2年生 | 147 | 94  | 191                   |
| 中学3年生 | 147 | 101 | 200                   |
| 高校1年生 | 163 | 163 | 165                   |
| 高校2年生 | 170 | 178 | 147                   |
| 高校3年生 | 141 | 175 | 57                    |
| 合 計   | 916 | 818 | 950                   |

#### 4. 本 調 査

本調査は国際比較研究であるため、各国の実態を反映するデータが得られるように努力した。しかし、結果的には、日本では西日本を中心に、台湾では南部を中心に、また、シンガポールでは若干ではあるが能力的に下位が少ないサンプリングとなった。調査の時期は1987年9月から11月、回答者は表2に示すように、日本が中学校：4校、高等学校：4校で計916名、台湾が中学校：1校、高等学校：2校で計818名、シンガポールが secondary school：5校、junior college：1校で計950名の合計2,684名である。

調査対象地域と調査校の概要：日本においては中高生の能力、設置形態（公立、大学の附属中学・高等学校等）、地理的特徴（都市部、農村部、都市近郊等）を配慮してサンプリングされた。サンプリングされた地域は中学校は兵庫県、大阪府、広島県、鹿児島県で、高等学校は兵庫県、島根県、東京都、大分県である。台湾においては4つの学校を選んだが、1校分の収集されたデータは郵送途中で紛失した。したがって、当初中学生と高校生のサンプル数はだいたいそろっていたが、結果として中学校のデータは1校分だけとなってしまった。サンプリングされた地域は中学校は台中市で、高等学校は高雄県と台南市である。シンガポールにおいては6校を選んだが、地域としては北部：1校、東部：2校、南部：3校（うち、junior collegeは東部）である。これらは、保護者の収入、生徒の能力等シンガポールの実態を反映するようにサンプリングしたが、調査協力校に名門校の割合が比較的多く、若干能力的に下位の者が少ないサンプルとなってしまった。

#### 5. 因子分析による「自尊心」の尺度構成

ここでは「自尊心」の尺度を構成するために因子分析と、「自尊心」の因子の構成要素の相対的な位置づけを解明するために林の数量化 III 類による分析・検討とを行なった。

「自尊心」の因子分析：データの中から欠損値データを含むものを除外し、残ったもので因子分析を行なった。質問項目が「あてはまる（はい）」、「あてはまらない（いいえ）」の二分法であったため、まず、各項目ごとの連相関（ $\phi$  係数）を求め、これをもとに国別の因子分析を行なった<sup>注8)</sup>。その結果、各国間にあまり相違がみられなかったため、共通因子を抽出するためにボンドサンプル方式を採用した。日本、台湾、シンガポール3カ国のボンドサンプル( $N=2,326$ , うち、日本：809, 台湾：700, シンガポール：817)による因子分析の結果を表3に示す。表からわかるように、3カ国に共通の因子としてつぎの2つの因子が抽出された<sup>注9)</sup>。

第1因子「自己実現性」として：ベストを尽くし、目的意識をもち、知識を深めようとする向上心（自己錬磨意識）の姿勢、及び、丁寧な言葉をつかい、礼儀正しくするといった対人関係への配慮を含んだもの。

第2因子「安全・安定性」として：食生活や、家族関係への配慮、さらに、自己の命、健康などを配慮し、人間としての心身両面の安全・安定を求めようとする姿勢、である。

林の数量化 III 類による分析：先に因子分析によって、中高生の「自尊心」の共通変数を集約的に把握する試みを行なった。ここではこの因子分析によって得た第1因子「自己実現性」と第2因子「安全・安定性」のそれぞれの因子を構成する各変数を中心に、ユークリッド空間における各項目の相対的位置づけを行なうために林の数量化 III 類による分析を行なった。図1, 2, 3に各国の分析結果を示す。なおプロットの内容とその番号は表1に示した。図1, 2, 3を比較してみると以下のことが言える。

第1因子については、日本では質問項目(#14)を除くと、すべての質問項目が“いいえ”を第2象限、“はい”を第4象限に、1対のクラスターとしてまとまる。台湾では、質問項目(#4, #18, #29, #35, #36, #38, #39)が、“いいえ”を第1象限、“はい”を第3象限に、質問項目(#14, #15, #34)が“いいえ”を第2象限、“はい”を第4象限にそれぞれ2つに分かれて、2つの対のクラスターとして位置する。シンガポールでは質問項目(#18, #29, #35, #36, #38, #39)が、“いいえ”を第1象限、“はい”を第3象限に、そして質問項目(#4, #14, #15, #34)が、“いいえ”を第2象限、“はい”を第4象限に、2つに分かれて、2つの対のクラスターとして位置する。

第2因子については、日本では質問項目(#1)を除くと、すべてが第1象限と第3象限に1対のクラスターとしてまとまる。台湾とシンガポールではすべての質問項目が、“いいえ”が

表3. ボンドサンプルによる因子分析結果（各項目の第1, 第2因子への負荷量（0.35以上））。

| 質問番号 | 質問項目  | 第1因子<br>自己実現性 | 第2因子<br>安全・安定性 |
|------|---|---------------|----------------|
| 15   | あなたはベストを尽くしていますか                                | 0.57          | -0.06          |
| 35   | “ ていねいなことばづかいをしていますか                            | 0.55          | 0.04           |
| 39   | “ 礼儀正しいですか                                      | 0.53          | 0.09           |
| 18   | “ 自分の言動に責任をもっていますか                              | 0.50          | 0.14           |
| 36   | “ 人に親切ですか                                       | 0.46          | 0.11           |
| 4    | “ 勉強したり読書したりして知識を深めようとして<br>していますか              | 0.46          | 0.01           |
| 34   | “ 夢・目標の実現に向けて頑張っていますか                           | 0.45          | 0.18           |
| 14   | “ 自分を愛していますか                                    | 0.42          | 0.17           |
| 38   | “ 正しい行ないをしていますか                                 | 0.42          | 0.15           |
| 29   | “ 誠実に生きていますか                                    | 0.41          | 0.32           |
| 25   | “ 食事をきちんととっていますか                                | -0.10         | 0.48           |
| 22   | “ 家族の人となかよくしていますか                               | 0.15          | 0.45           |
| 5    | “ 自分の命を大切にしていますか                                | 0.16          | 0.39           |
| 1    | “ 運動するなど、健康に注意していますか<br>(運動していなくても健康に気をつけていますか) | 0.14          | 0.36           |
| 固有値  |   | 5.39          | 1.11           |
| 寄与率  |   | 50.2%         | 10.3%          |

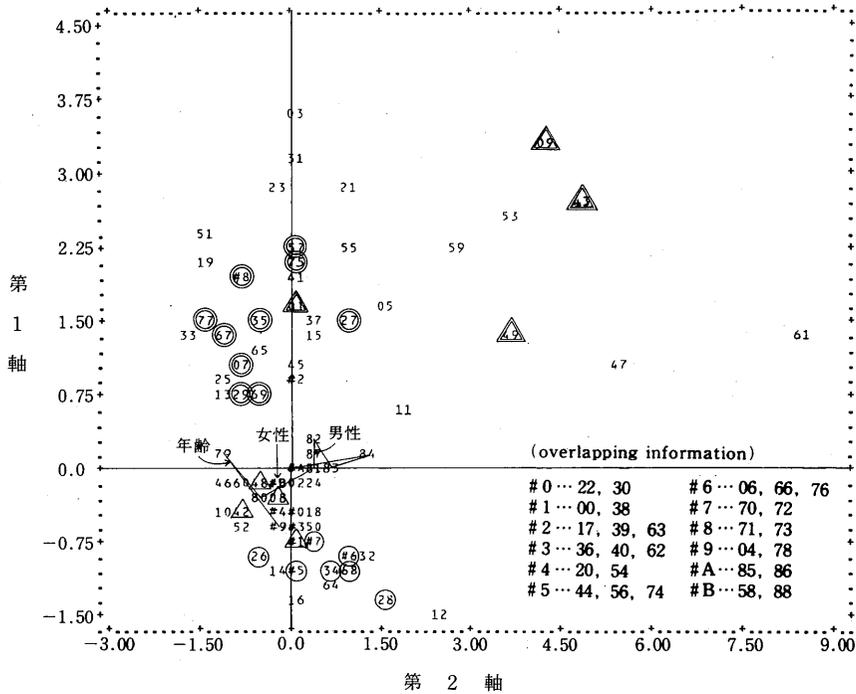


図1. 「自尊心」の林の数量化 III 類の分析結果：日本（第1因子を構成する各質問項目に対する回答の“いいえ”を(◎)，“はい”を(○)）第2因子を構成する各質問項目に対する回答の“いいえ”を(△)，“はい”を(△)とする（図2及び図3も同じ）。

第2象限，“はい”が第4象限に，1対のクラスターとしてまとまる。したがって，第1因子については，因子分析の結果と林の数量化 III 類の分析結果とが，台湾とシンガポールにおいて異なるが，第2因子については，日本の1項目を除けば，3カ国において因子分析の結果と林の数量化 III 類の分析結果とが同じになる。

つぎに，図1，2，3に性別，年齢別のプロットを入れると，性差は台湾とシンガポールにおいてみられ，かつ，取り上げた項目も似ているが，日本においてはそれがみられない。年齢差は，日本においては小さく，シンガポールにおいては大きい。また台湾においては，複雑な形をして変動が大きいものの，傾向的な差とはなっていない。このことは性と年齢の違いによって，項目の取り上げ方が，シンガポールと台湾は日本と違うことを意味する。

以上，因子分析及び林の数量化 III 類によって，2つの因子とそれぞれの因子の特徴を得たが，つぎに，それぞれの因子得点の要因となるものをみいだすために要因分析を行なう。

### 6. 重回帰分析による因子得点の要因分析

因子分析によってみいだされた「自尊心」の2つの因子をおのおのさらに分析するために，これらの因子と関連する事象や要因を用いて，重回帰分析を試みた。「自尊心」の2つの因子を説明する要因として，遠藤 他(1974)，Elliott(1982)，Faunce(1982, 1984)，Gauthier and Kjervik(1982)，Walsh and Taylor(1982)，Mackie(1983)，Silvern and Ryan(1983)，Hoelter

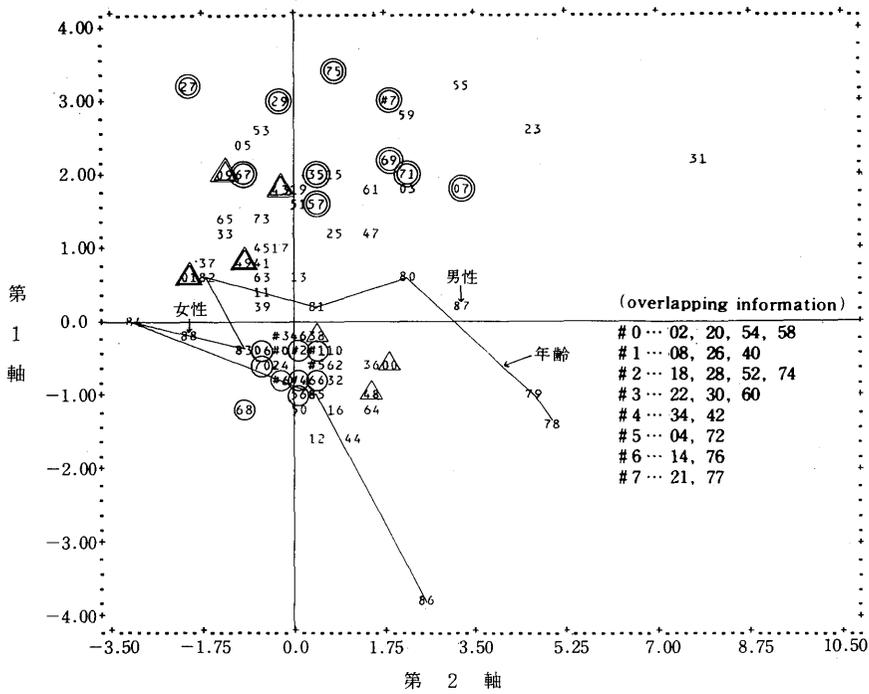


図2. 「自尊心」の林の数量化III類の分析結果：台湾。

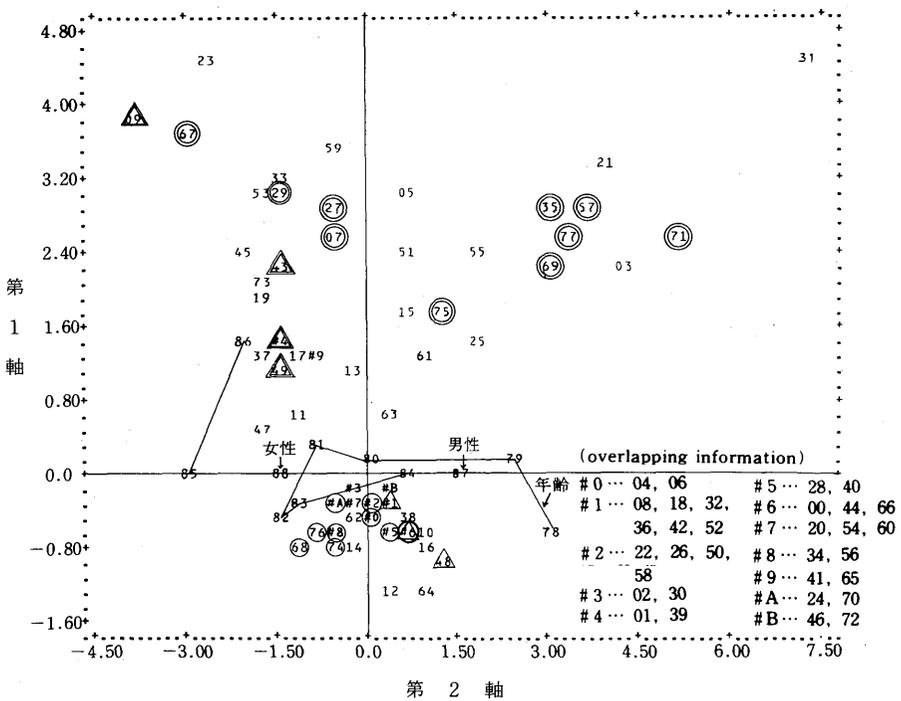


図3. 「自尊心」の林の数量化III類の分析結果：シンガポール。

(1983), Kallen and Doughty (1984), 岩井・小田 (1986), 徳田 (1987) 等の研究を参考に、27項目を選び出した(表4参照)。

また、上記の研究で取り上げられた仮説は以下の6つであり、すべてを本研究の要因分析に組み込んだ。

- ① 目的意識が高ければ、「自尊心」の度合は高い
- ② 友人関係が良好であれば、「自尊心」の度合は高い
- ③ 学校への満足度が高ければ、「自尊心」の度合は高い
- ④ 両親の養育態度と、「自尊心」には関連がみられる
- ⑤ 情緒の安定(不安化傾向)は、「自尊心」に関連する
- ⑥ 国や文化の違いによって、「自尊心」の度合に寄与する変数に違いがみられる

本研究における要因分析は重回帰分析のステップ・ワイズ法によってなされた。また、従属変数には、先にボンドサンプルで行なった因子分析の結果の因子得点を用いた。つまり、第1因子及び第2因子の因子得点が従属変数となり、各国のモデルの検証がなされた。それぞれの結果を表5, 6に示す。

#### 重回帰分析における分析結果(第1因子「自己実現性」)

表5によると、日本においては主に、「年齢」、「学校への満足度」、「学習時間」、「家にある物(経済的側面)」、「父親の養育態度」、「目的意識」、「これまでの人生への満足度」、「他者尊重」等によって説明され、年齢が増すほど、学校で勉強することが好きであるほど、家庭学習の時間が多いほど、家にある物が安価であるほど(多分にその家が経済的に恵まれていないほど)、父親が厳しさよりも自由を尊重した養育態度であるほど、目的意識がはっきりしているほど、これまでの人生に満足しているほど、そして、他人を尊敬しているほど、高いと言える。台湾においては主に、「性別」、「学業成績」、「他者尊重」、「信念」等によって説明され、女性の方が、学業成績がよいほど、他人を尊敬しているほど、信念(意志の強さ)を強くもっているほど、「自己実現性」に配慮した生き方をしていると言える。シンガポールにおいては主に、「年齢」、「学校への満足度」、「学習時間」、「これまでの人生への満足度」、「信念」等によって説明され、年齢が増すほど、学校で勉強することが好きであるほど、家庭学習の時間が多いほど、これまでの人生に満足しているほど、意志をしっかりと持っているほど「自己実現性」に配慮していると言える。この中で特に、信念を強くもつことは他の変数に比べ、影響力が大きい。

#### 重回帰分析における分析結果(第2因子「安全・安定性」)

表6によると、日本においては主に、「父親との交流度」、「母親との交流度」、「家庭の雰囲気」、「家の広さ」、「他者尊重」、「自己理解度」等によって説明され、父親との会話が増すほど、母親との会話が増すほど、家庭の雰囲気が暖かいほど、家の広さが狭いほど、他人を尊敬しているほど、自己理解が深いほど、高いと言える。特に、家庭の雰囲気は他の変数に比べ、影響力が大きい。台湾においては主に、「性別」、「兄弟姉妹との関係」、「家庭の雰囲気」、「目的意識」、「他者尊重」、「信念」等によって説明され、男性の方が、また兄弟姉妹との仲が良いほど、家庭の雰囲気が暖かいほど、目的意識がはっきりしていないほど、そして、信念をはっきり(強く)もっているほど、高いと言える。この中で特に、性別、家庭の雰囲気、他者尊重、信念は他の変数に比べ、比較的影響力が大きい。シンガポールにおいては主に、「性別」、「母親との交流度」、「家庭の雰囲気」、「父親の養育態度」、「これまでの人生への満足度」、「他者尊重」等によって説明され、男性の方が、また母親との会話が増すほど、家庭の雰囲気が暖かいほど、父親が青少年の自由を尊重するより厳しい養育態度であるほど、これまでの人生経験(体験)に満足してい

表4. 重回帰分析を行なう上で「自尊心」の2つの因子を説明する要因として考えられる項目(( )の中はコード化の仕方を示す)。

| 変数番号 | 説明   | 変数 |
|------|--|----|
| 1    | 年齢 (1=12歳, ..., 9=20歳)   |    |
| 2    | 性別 (ダミー変数を用いた)   |    |
| 3    | 学年 (1=中1 (secondary 1), ..., 6=高3 (junior college 2))  |    |
| 4    | 友人数 (1=0人, 2=1~2人, ..., 29=55~56人, 30=57人以上)   |    |
| 5    | 親友数 (1=0人, 2=親友かどうかかわからない, 3=1人, 4=2人, ..., 17=15人, 18=16人以上)                                    |    |
| 6    | 父親との交流度 (1=まったく話さない, ..., 5=いろいろと話す)   |    |
| 7    | 母親との交流度 (1=まったく話さない, ..., 5=いろいろと話す)   |    |
| 8    | 兄弟姉妹との関係 (1=非常に仲が悪い, ..., 5=非常に仲が良い)   |    |
| 9    | 家庭の雰囲気 (1=全く冷たい, ..., 5=非常に暖かい)  |    |
| 10   | 好きな先生の数 (1=0人, 2=1人, ..., 8=7人, 9=8人以上)  |    |
| 11   | 理解してくれる先生の数 (1=0人, 2=1人, ..., 8=7人, 9=8人以上)  |    |
| 12   | クラスの間関係への満足度 (1=非常に不満である, ..., 5=非常に満足している)  |    |
| 13   | 学校への満足度 (1=非常に不満である, ..., 5=非常に満足している)   |    |
| 14   | 学業成績 (1=全くできない, ..., 5=非常によくできる)   |    |
| 15   | 学習時間 (平日の平均) (1=全くしていない, 2=15分未満, 3=15~30分, 4=30分~1時間, (以下30分間隔で加算)..., 18=7時間30分~8時間, 19=8時間以上) |    |
| 16   | 家の広さ (各国でコード化が異なり, 項目が多くなるため下記に示す*)  |    |
| 16'  | 借家・持ち家** (1=借家, 2=持ち家)   |    |
| 17   | 家にある物(1=テレビ, ..., 7=自動車4台以上として, 回答者の答えた番号のうち1番大きな数値をとった)   |    |
| 18   | 父親の職業 (各国とも5つに分類し, ダミー変数として取り扱った)  |    |
| 19   | 健康度 (1=非常に不健康である, ..., 5=非常に健康である)   |    |
| 20   | 父親の養育態度 (1=なんでも自由にさせる, ..., 5=なんでも厳しい)   |    |
| 21   | 母親の養育態度 (1=なんでも自由にさせる, ..., 5=なんでも厳しい)   |    |
| 22   | 不安化傾向 (1=不安になることはまったくくない, ..., 5=不安になることが非常によくある)  |    |
| 23   | 目的意識 (1=まったくくない, ..., 5=非常にある)   |    |
| 24   | これまでの人生への満足度 (1=非常に不満である, ..., 5=非常に満足である)   |    |
| 25   | 他者尊重 (1=まったく尊重していない, ..., 5=非常に尊重している)   |    |
| 26   | 信念 (1=まったくもっていない, ..., 5=非常に強くもっている)   |    |
| 27   | 自己理解度 (1=まったく理解していない, ..., 5=非常によく理解している)  |    |

\* 各国の事情に応じて家の広さのインデックスを作った。日本: 1=2部屋以下, 2=3~4部屋, ..., 8=15~16部屋, 9=17部屋以上, 台湾: 1=1部屋, 2=2部屋, ..., 5=5部屋, 6=6部屋以上, シンガポール: 部屋の数ではなく, 家のタイプを, 1=HDB 1-room flat, HDB/PSA/SAF 2-room flat, HDB/PSA/SAF 3-room flat, 2=HDB/PSA/SAF 4-room flat, HDB/PSA/SAF 5-room flat, 3=Govt/Quasi-Govt executive flat, HUDC flat, private flat or private apartment, 4=HDB shophouse, Shophouse (others), 5=HUDC terrace, Terrace (others), 6=Semi-detached house, 7=Detached house に分類した。

\*\* 日本ではこの質問がない。

るほど, そして他人を尊敬するほど, 高い「安全・安定性」を示すと言える。

## 6.1 考察

上記の分析により, 「自尊心」の第1因子(「自己実現性」(表3参照))については3カ国に共通となる独立変数はみられない。日本とシンガポールに共通の変数として, 「年齢」, 「学校へ

表5. 重回帰分析における分析結果(第1因子「自己実現性」).

| 変数番号  | 説明変数         | $\beta^*$ |       |        |
|-------|--------------|-----------|-------|--------|
|       |              | 日本        | 台湾    | シンガポール |
| 1     | 年齢           | 0.122     | —     | 0.119  |
| 2     | 性別           | —         | 0.110 | —      |
| 13    | 学校への満足度      | 0.139     | —     | 0.111  |
| 14    | 学業成績         | —         | 0.172 | —      |
| 15    | 学習時間         | 0.123     | —     | 0.107  |
| 17    | 家にある物        | -0.101    | —     | —      |
| 20    | 父親の養育態度      | -0.096    | —     | —      |
| 23    | 目的意識         | 0.123     | —     | —      |
| 24    | これまでの人生への満足度 | 0.147     | —     | 0.123  |
| 25    | 他者尊重         | 0.125     | 0.147 | —      |
| 26    | 信念           | —         | 0.248 | 0.166  |
| 重相関係数 |              | 0.286     | 0.243 | 0.158  |

\*  $p < 0.01$ 

表6. 重回帰分析における分析結果(第2因子「安全・安定性」).

| 変数番号  | 説明変数         | $\beta^*$ |        |        |
|-------|--------------|-----------|--------|--------|
|       |              | 日本        | 台湾     | シンガポール |
| 2     | 性別           | —         | 0.157  | 0.112  |
| 6     | 父親との交流度      | 0.092     | —      | —      |
| 7     | 母親との交流度      | 0.104     | —      | 0.098  |
| 8     | 兄弟姉妹との関係     | —         | 0.113  | —      |
| 9     | 家庭の雰囲気       | 0.238     | 0.161  | 0.152  |
| 16    | 家の広さ         | -0.082    | —      | —      |
| 20    | 父親の養育態度      | —         | —      | 0.136  |
| 23    | 目的意識         | —         | -0.097 | —      |
| 24    | これまでの人生への満足度 | —         | —      | 0.139  |
| 25    | 他者尊重         | 0.124     | 0.168  | 0.145  |
| 26    | 信念           | —         | 0.167  | —      |
| 27    | 自己理解度        | 0.106     | —      | —      |
| 重相関係数 |              | 0.338     | 0.273  | 0.252  |

\*  $p < 0.01$ 

の満足度」, 「学習時間」, 「これまでの人生への満足度」等があげられる。日本と台湾に共通の変数として, 「他者尊重」があげられる。台湾とシンガポールに共通の変数として, 「信念」があげられる。これらの結果は3カ国の中高生の意識の構造に, 日本とシンガポールの共通性として学業面において類似性が, 日本と台湾の共通性として「他者尊重」に類似性が, 台湾とシンガポールの共通性として「信念」に類似性があることを示唆するものと言えよう。しかし, 全体的にみて, 台湾は日本とシンガポールからかけ離れていることがうかがえる(図4参照)。

さらに, 「自尊心」の第2因子(「安全・安定性」(表3参照))を説明する変数のうち, 3カ国に共通のものとして「家庭の雰囲気」, 「他者尊重」があげられる。日本とシンガポールのみ

に共通の変数として「母親との交流度」があげられる。台湾とシンガポールのみ共通の変数として男性であることがあげられる。これらの結果は、3カ国の中高生が「安全・安定性」について共通に感じることを示し、「家庭の雰囲気」、「他者尊重」があげられることを示し、また、シンガポール及び台湾の中高生がその意識に、「性別」が関与していることを示唆するものである。つまり、男性であることが「安全・安定性」を感じることに大きく影響していることを示していると言える。これに対し、日本では「性別」は「安全・安定性」に対して有意な影響を与えていない(図5参照)。

## 6.2 要因分析のまとめ

要因分析の結果として以下の6つのことが検証された。

① 目的意識が高いほど、「自尊心」の度合は高い：に対しては、日本の第1因子「自己実現性」においてのみ支持された。しかし、台湾においては、反対に目的意識が低いほど第2因子「安全・安定性」に寄与していた。これは、「自尊心」が目的意識に大きく影響されているであろうとの当初の仮説に対して、筆者等の考え方が日本的なものであり、台湾における「学業成績」、「信念」、シンガポールにおける「信念」といった特殊性を当初予測できなかったことを示すものである。

② 友人関係が良好であるほど、「自尊心」の度合は高い：に対しては3カ国とも支持されなかった。しかし、「他者尊重」というかたちで3カ国とも第2因子「安全・安定性」に寄与し、日本と台湾においては第1因子「自己実現性」に寄与している。この仮説は自由記述により、中高生の多くが友人関係の大切さをあげていたことによりもたらされたが、友人関係(友人の数、親友の数、クラスの間関係への満足度)という人間関係的なものより、その背景にある他者を尊重しようとする内面的な要素が「自尊心」に大きく寄与していることが判明した。

③ 学校への満足度が高いほど、「自尊心」の度合は高い：については日本とシンガポールの2カ国で第1因子「自己実現性」において支持された。中高生の生活の中核に学校生活があげ

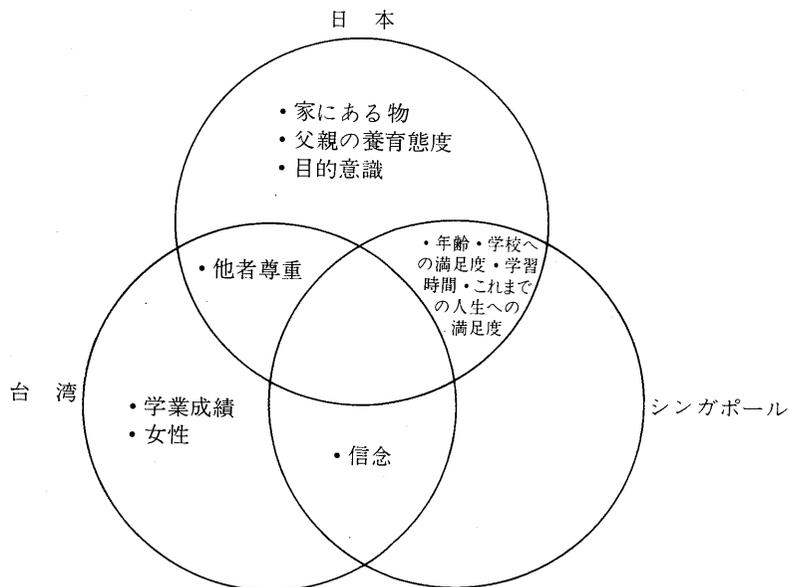


図4. 3カ国における「自己実現性」に寄与する属性の共通性と特殊性.

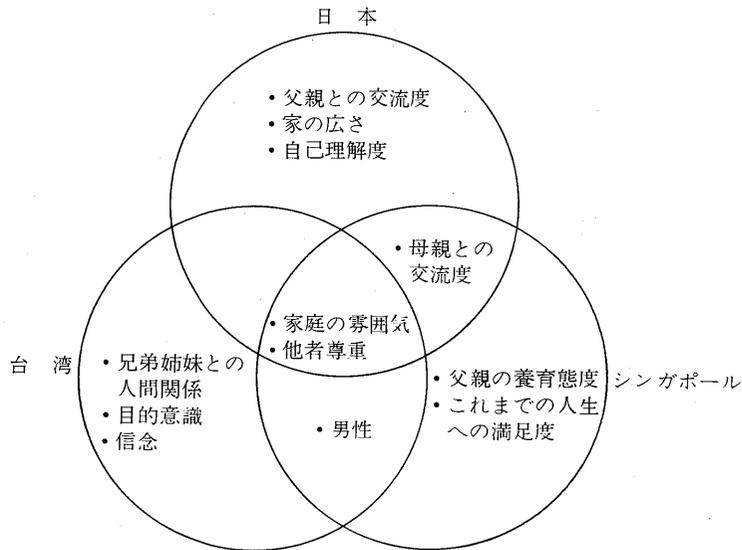


図5. 3カ国における「安全・安定性」に寄与する属性の共通性と特殊性.

られ、「学校で勉強すること」が好きであるほど（学校への勉強面における満足度だけでなく、広く学校への満足を示す）、中高生が「自尊心」をもつと考えるのはすこぶる当然であろう。

④ 両親の養育態度と、「自尊心」には関連がみられる： に対しては日本においては第1因子「自己実現性」に寄与するものとして検証された。この場合、父親が厳しく言わずに自由を尊重する養育態度をとるほど、「自己実現性」が高いという結果を得たことは興味深い。また、シンガポールにおいては、第2因子「安全・安定性」に寄与するものとして検証された。この場合、父親が自由にさせるのではなく、厳しい養育態度であるほど、「安全・安定性」が高いという結果を得た。あくまで推測であるが、シンガポールにおいては家庭内での父親の態度が厳しいものであるほど、家庭的安定が図られるのかもしれない（このことは今後の検討を要する課題である）。

⑤ 情緒の安定（不安化傾向）は、「自尊心」に関連する： については3カ国で支持されなかった。つまり、必ずしも不安化傾向の高い中高生が、「自尊心」の度合が低いとは言えず、また、必ずしも不安化傾向が低いことが、「自尊心」に寄与するとも言えない。

⑥ 国や文化の違いによって「自尊心」の度合に寄与する変数に違いがみられる： については、以下のことが言える。以下では各国固有の項目を取り上げる。

第1因子「自己実現性」について、国（文化）の違いによるものは、日本では家にある物（経済的側面）が安価であること、父親の養育態度が自由であること、目的意識が高いこと等が特徴としてあげられ、台湾では、学業成績、女性であること等が特徴としてあげられる。シンガポールのみの特徴はみられない。

第2因子「安全・安定性」については、日本の特徴として、父親との交流度が高いこと、家の広さが狭いこと、自己理解度が高いこと等があげられ、台湾の特徴として、兄弟姉妹との人間関係がよいこと、目的意識が高いこと、信念をしっかりとっていること等があげられ、シンガポールの特徴として、父親の養育態度が厳しいこと、及びこれまでの人生への満足度等があげられる。

総じて、日本の中高生の特徴として、経済的側面及び父親との関係があげられ、台湾の中高生の特徴には、学業成績や信念の強さがあげられる。シンガポールは、これら2カ国の中間に位置し、これまでの人生への満足度が特徴的であると思われる。これらの結果は、経済的発展及び義理人情といった伝統的側面が背後に大きな要因となっていることが考えられ、日本、シンガポール、台湾の順でこれらを把握できることをも示唆する。

## 7. 要約及び結論

本研究は、従来の「自尊心」の研究が「自尊心」の意味の明確化、その限定及び測定尺度が確立されないまま進められたこと、また、日本における研究が、文化や価値観の相違を視野にいたした正しい意味での比較の視点を欠くものが多いことへの疑問を出発点とする。

本研究ではその第一歩として、日本と社会、経済、文化上の共通点がみられる他のアジアの2カ国（台湾及びシンガポール）を取り上げ、中高生（サンプル数：2,684名）の「自尊心」についての意識の比較を行なった。まず自由記述により、中高生が「自己を尊重する」ことをどのように考えているかを把握することから始めた。この結果、日本、台湾、シンガポールの中高生が「自己を尊重すること」として「健康に留意する」、「自分の心に素直である」等をあげていることが判明した。

本研究の調査においては2段階方式を採用し、自由記述の回答において各国5パーセント以上の回答を得た項目だけを取り上げ、これらをもとに3カ国に共通する質問項目を作成し、インベントリー方式により本調査を実施した。まず、国別の因子分析を行なった結果、各国間の相違があまりみられなかったので共通の因子を抽出するためにボンドサンプルによる方式を採用した。それをもとに因子分析を行なった結果、第1因子「自己実現性」と第2因子「安全・安定性」を得た。さらに、第1、第2のそれぞれの因子の構造を解明するために林の数量化III類による分析を行なった。その結果、台湾とシンガポールでは第1因子が2つに分かれるが、日本では1項目を除くと1つにまとまることが判明した。また、第2因子においては、日本における1項目を除くと3カ国とも1つにまとまることが判明した。さらに、「年齢」及び「性別」については、台湾とシンガポールにおいて差がみられたが、日本においては、「年齢」にしか差がみられなかった。台湾とシンガポールで、第1因子が2つに分かれたことは、これら2カ国に、年齢差と性差が存在することに関係しているものと思われる。

つぎに、因子分析によって得た新しい「自尊心」の尺度を従属変数にし、ステップ・ワイズ方式による重回帰分析を行ない、各国別の「自尊心」についての6つの仮説を組み入れ、「自尊心」を説明する変数の選択が要因分析によってなされた。この結果、一部の仮説が部分的に支持された。また、第1因子「自己実現性」については、3カ国に共通するものはなかったが、各2カ国間に共通の変数として、「他者尊重」、「年齢」、「学校への満足度」、「学習時間」、「これまでの人生への満足度」及び「信念」等が得られた。第2因子「安全・安定性」については、3カ国に共通する変数として「家庭の雰囲気」と「他者尊重」が寄与していることが判明した。

## 8. 今後の課題

今回調査対象としたのは、日本、台湾、シンガポールであった。現在、日本(437名)、韓国(1,384名)、アメリカ(777名)、ニュージーランド(728名)、オーストラリア(646名)、カナダ(271名)、イギリス(163名)及びポーランド(839名)からのデータの分析を進めている。日本と国情の異なる多くの国々のデータをも分析に加えることにより、日本の特徴、また、日

本と他の国々に共通する普遍的なものが存在するかどうか、ということを知明しなければならぬ。さらに、本研究では「自尊心」という日本語でも多義的な概念を限定的に用いたが、それを外国語（英語及び中国語）に移すという言語上の統一・標準化の問題解決は今後に残される（翻訳の問題点については林・鈴木（1986）を参照）。

本研究は服部（1988）が兵庫教育大学に提出した修士論文のために収集したデータを佐々木が再構成し、論述したものである。この論文の作成にあたり、貴重な助言を下された査読者に感謝する。

## 注

- 1) 例え、服部（1988）は以下の表に示す Coopersmith の尺度を日本、台湾、シンガポール、及びアメリカの中高生に適用し、林の数量化 III 類を用いて分析した。この結果、Coopersmith 尺度の項目は、アメリカやシンガポールではまとまりをもっている（しかも、このまとまりはアメリカの方がはっきりとしている）が、これに対して、日本や台湾では Coopersmith 尺度の項目はひとつのまとまったものとはなっていないことが判った。このことが、日本を含めた国際比較を可能にするための新しい尺度項目を構成するという本研究の動機となったのである。

Coopersmith 尺度の項目

| 質問番号 | 項 目  |
|------|--|
| 1*   | 私は自分の学校での勉強に自信があります                            |
| 2*   | 私はふだん自分のことは自分でしています                            |
| 3    | 私はとても幸せです                                      |
| 4*   | 私は自分で自分のことがわかっています（自分自身のことを理解しています）            |
| 5*   | 私は物事を自分で決め、それを続けることができます                       |
| 6*   | 私の両親は私のことをわかってくれています                           |
| 7    | 私は他の人を楽しませることが出来ます（他の人は私といると楽しく感じます〔私も同時に楽しい〕） |
| 8    | 私は自分が他の誰かであつたらいいのになあと思うことがあります                 |
| 9*   | 私は自分のしたことを後悔することがよくあります                        |
| 10*  | 私の両親は私に期待をかけすぎています                             |
| 11   | 私は自分で自分を恥かしいと思うことがよくあります                       |
| 12   | 私の生活はいろんなことでごちゃごちゃになっています                      |
| 13*  | 私の家ではだれも私にはあまりかまってくれません                        |
| 14   | 私は自己卑下しています（自分で自分を見下げることがよくあります）               |
| 15   | 私は家にいるとうんざりすることがよくあります                         |
| 16   | 私は学校で気持ちがゆううつになること（気分がおちこむこと）がよくあります           |
| 17   | 私は（同性に）からかわれたことが何回もあります（〔同性に〕いじめられたことが何回もあります） |
| 18   | 私は自分に何がおこっても気になりません                            |
| 19   | 私は脱落者（人生に失敗した人）です                              |
| 20   | 私はしかられるとすぐに気持ちがゆううつになります（気分がおちこみます）            |
| 21   | 私は学校にうんざりすることがよくあります                           |
| 22   | 私は長い間空想にふけることがあります                             |
| 23*  | 私は人にたよられるような人間ではありません                          |

- 2) シンガポールの secondary school は、原則として、日本及び台湾の中学1年から高校1年、または高校2年に相当し、junior college は、日本及び台湾の高校2年から3年に相当する。なお、回答者の中にはシンガポールでは、19歳と20歳が含まれていた。
- 3) これはちょうどマックス・ウェーバーが宗教を定義する上で、研究者が定義するものより、人々が宗教と呼んでいるものを定義として使ったこと（いわば実定的定義）に類似している（Budd (1979)）。
- 4) この時期は「自尊心」の意味が理解でき、かつ、対人関係が重要となる年齢層であると考えられる。本論文は社会心理学的視点をとっているため、特にこの対人関係を考慮した。
- 5) 台湾での質問は「在你自己的日常生活當中什麼事，你覺得重要？請自由地思考後，在下列空白處（數目，自由決定）」である。なお、中国語においては中国語の「尊重」という言葉が日本語の「尊重」という言葉の意味より回答者に狭く解釈される可能性があるため、研究者の意図をそこなわないように中国語文の説明を台湾における調査協力者を通して、教室で回答者に説明を行なった。  
シンガポールでの質問は「What do you think it is to respect yourself? Please write as many ideas as you think of. 在你自己的日常生活當中什麼事，你覺得重要？請自由地思考後，在下列空白處（數目，自由決定）」である。なお、シンガポールにおいては中国語を理解する回答者もいるため、台湾での質問内容と言語的な意味において、できるだけ同一となるように、中国語の質問を同時に入れた。ただし、回答はすべて英語でなされた。
- 6) 各国において5パーセント以上の項目として取り上げたものが大勢を占める。しかし、若干ではあるが、①の意味、すなわち「尊大であること」とか、「高ぶること」を自尊心としてあげた者がいる（日本0.9パーセント、台湾1.5パーセント、シンガポール1.2パーセント）。
- 7) なお結果として、質問項目の内容は、Coopersmith 尺度の項目の40パーセントと重複するものとなった。重複する項目には注：1) の表中で\*を付した。
- 8) 日本、台湾、シンガポールに共通の項目として「向上心」及び「対人関係」があげられる。そして日本においては「向上心」は、台湾及びシンガポールに比べてより広い概念で中高生に意識されている。つまり、目的意識、規律順守、礼儀面での向上、自己への厳しき等を含んだ広い意味での「向上心」が日本の中高生の意識の特徴である。  
さらに、第1因子と第2因子のそれぞれの国に共通して現れた項目として「あなたは時間を大切にしていますか」、「あなたは人に親切ですか」、「あなたは自分の命を大切にしていますか」、「あなたは礼儀正しいですか」等があげられ、これらは文化を捨象した共通性を示す項目として注目される。
- 9) なお、この結果と Coopersmith 尺度の項目を比較すると、第1因子には Coopersmith 尺度の2つの質問項目（注：1) の表中の質問番号#2と#5）、第2因子には1つの質問項目（#13）しか入っていないことが明らかとなった。

## 参考文献

- 蘭 千壽 (1980). ソンオメトリック選択に及ぼす Self-Esteem の効果, 九州大学教育学部紀要 (教育心理学部門), **25**, 53-59.
- Bennett, L.A., Sorensen, D.E. and Forshay, H. (1971). The application of self-esteem measures in a correctional setting 1, Reliability of scale and relationship to other measures, *Journal of Research in Crime and Delinquency*, **8**, 1-9.
- Budd, S. (1979). *Sociologists and Religion*, Collier-Macmillan, London.
- Coopersmith, S. (1967). *The Antecedents of Self-Esteem*, W.H. Freeman and Co., San Francisco.
- Crandall, R. (1973). The measurement of self-esteem and related constructs, *Measures of Social Psychological Attitudes* (eds. J. Robinson and P. Shaver), Inst. Soc. Res., Ann Arbor, Michigan.
- Elliott, G. (1982). Self-esteem and self-presentation among the young as a function of age and gender, *Journal of Youth and Adolescence*, **11**, 135-153.
- 遠藤辰雄, 安藤延男, 冷川昭子, 井上詳治 (1974). Self-Esteem の研究, 九州大学研究紀要, **18**, 53-65.

- Faunce, W.A. (1982). The relation of status to self-esteem: Chain saw sociology at the cutting edge, *Sociological Focus*, **15**, 163-178.
- Faunce, W.A. (1984). School achievement, social status, and self-esteem, *Social Psychology Quarterly*, **47**, 3-14.
- Gauthier, J. and Kjervik, D. (1982). Sex-role identity and self-esteem in female graduate nursing students, *Sex Roles*, **8**, 45-55.
- Gecas, V. (1982). The self-concept, *Annual Review of Sociology*, **8**, 1-33.
- 服部千秋 (1988). 自分を尊重した(大切に)した)生き方をすることに関する研究——アジア諸国の青少年の意識を事例として——, 兵庫教育大学 修士論文.
- 林 知己夫, 鈴木達三 (1986). 社会調査と数量化——国際比較におけるデータ解析——, 岩波書店, 東京.
- Heiss, J. and Owens, S. (1972). Self-evaluation of blacks and whites, *American Journal of Sociology*, **78**, 360-370.
- Hoelter, J.W. (1983). Factorial invariance and self-esteem: Reassessing race and sex differences, *Social Forces*, **61**, 834-846.
- Hulbary, W. (1975). Race, deprivation, and adolescent self-image, *Social Science Quarterly*, **56**, 105-114.
- 岩井勇児, 小田昌世 (1986). 中学生の自尊心と学業成績の評定, 愛知教育大学 研究報告(教育科学編), **35**, 85-97.
- 井上信子 (1986). 児童の自尊心と失敗課題の対処との関連, 教育心理学研究, **34**, 10-19.
- James, W. (1890). *Principles of Psychology*, Vol. 2, Holt, New York.
- 海保博之, 山下恒男 (1968). 自尊尺度(SEI)作成の試み(I), 日本心理学会 第32回大会 発表論文集, p. 33.
- Kallen, D. and Doughty, A. (1984). The relationship of weight, the self perception of weight and self esteem with courtship behavior, *Marriage and Family Review*, **7**, 93-114.
- 菅 佐和子 (1975). Self-Esteem と対他者関係に関する一研究——青年期を対象として——, 教育心理学研究, **23**, 224-229.
- Krauss, H. H. and Critchfield, L. L. (1975). Contrasting self-esteem theory and consistency theory in predicting interpersonal attraction, *Sociometry*, **38**, 247-260.
- Mackie, M. (1983). The domestication of self: Gender comparisons of self-imagery and self-esteem, *Social Psychology Quarterly*, **46**, 343-350.
- 松下 寛 (1969). Self-image の研究——Self-esteem scale の作成——, 日本教育心理学会 第11回総会 発表論文集, 280-281.
- 三田英二 (1984). Self-Esteem に関する研究(1)——青年期の発達的变化について——, 関西学院大学文学部教育学科 研究年報 第10号(教育心理学特集), 29-38.
- 根本橋夫 (1972). 対人認知に及ぼす Self-Esteem の影響(I), 実験社会心理学研究, **12**, 68-77.
- 野島一彦, 村山正治 (1975). エンカウンター・グループにおける Self-Esteem の変化と関係認知, 九州大学教育学部紀要(教育心理学部門), **19**, 41-48.
- Porter, J.R. and Washington, R.E. (1979). Black identity and self-esteem, *Annual Review of Sociology*, **5**, 53-74.
- Rosenberg, M. (1965). *Society and the Adolescent Self-Image*, Princeton Univ. Press, Princeton.
- Rosenberg, M. (1979). *Conceiving the Self*, Basic Books, New York.
- Rosenberg, M. (1981). The sociology of the self-concept, *Social Psychology: Sociological Perspectives* (eds. M. Rosenberg and R. Turner), Basic Books, New York.
- Rosenberg, M. and Pearlin, L.I. (1978). Social class and self-esteem among children and adults, *American Journal of Sociology*, **84**, 53-77.
- Silvern, L.E. and Ryan, V.L. (1983). A reexamination of masculine and feminine sex-role ideals and conflicts among ideals for the man, woman, and person, *Sex Roles*, **9**, 1223-1248.
- Simmons, R.G., Rosenberg, F. and Rosenberg, M. (1973). Disturbance in the self-image at adolescence, *American Sociological Review*, **38**, 553-568.
- Simmons, R.G., Blyth, D.A., Van Cleave, E.F. and Bush, D.M. (1979). Entry into early adolescence: The impact of school structure, puberty, and early dating on self-esteem, *American Sociological Review*, **44**, 948-967.
- 徳田完二 (1987). 青年期における自己評価と両親の養育態度, 心理学研究, **58**, 8-13.

- Walsh, E. and Taylor, M.C. (1982). Occupational correlates of multidimensional self-esteem : Comparisons among garbage-collectors, bartenders, professors, and other workers, *Sociology and Social Research*, **66**, 252-268.
- Wells, L.E. and Marwell, G. (1976). *Self-Esteem : Its Conceptualization and Measurement*, Sage, Beverly Hills, Massachusetts.
- Wylie, R.B. (1961). *The Self-Concept : A Critical Survey of Pertinent Research Literature*, University of Nebraska Press, Lincoln, Nebraska.
- Yancey, W., Rigsby, L. and McCarthy, J. (1972). Social position and self-evaluation : The relative importance of race, *American Journal of Sociology*, **78**, 338-359.
- Ziller, R.C., Hagey, J., Smith, M.D.C. and Long, B.H. (1969). Self-esteem : A self-social construct, *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **33**, 84-95.

## Cross-National Study on a Scaling of Self-Esteem

Masamichi Sasaki

(School of Education, Hyogo Kyoiku University)

Chiaki Hattori

(Akashi Nishi High School)

Studies on self-esteem have progressed without clear definition or establishment of cogent scaling. Further, most studies on self-esteem in Japan have failed to account for cultural differences among nations.

The purposes of the present study are: (1) to construct a new scaling of self-esteem based on survey responses obtained from students ranging in age from 12 to 20 from Japan, Taiwan, and Singapore; and (2) to identify the core elements which compose self-esteem based on the surveys.

A two-step method was introduced to construct a new self-esteem scale. The first step was to derive question items on self-esteem by carrying out surveys among 1,134 students using the open-ended question: "what do you think it is to respect yourself?" The second step was to construct factor analysis of self-esteem using 2,684 students from the three nations, utilizing the question items derived from responses obtained in the first step.

The results of the factor analysis using the resulting question items and all three nations' samples (i.e., a bond sample) indicated that there are two factors: self-actualization and safety/stability. Hayashi's correspondence analysis was used to identify the relative locations of all the related variables which compose the two factors.

Finally, multiple regression analysis was performed to identify variables which explain self-esteem in each nation (making the self-esteem score obtained by factor analysis the dependent variable). As a result, self-actualization, which is the first factor, is explained by variables common to only two nations: "respect others", "age", "satisfaction toward school", "learning hours", "satisfaction toward past experiences" and "self confidence". Safety/stability, the second factor, is explained by variables common to all three nations: "family atmosphere" and "respect others".